

可觀小説卷十七

一、魚津御馬廻組小川忠左衛門覺書

一、利家様天正九年越前國府中より能州へ御入國以後、大坂兩度の御陣迄、十七ヶ度御陣御座候事。

一、天正十年越後國景勝業、越中國魚津城に籠城仕砌、利家様魚津へ御出陣。其刻前田五郎兵衛様能州七尾御城代に付、御息孫左衛門様後藤守中候御供被成候事。

一、魚津御出陣御留守、能州奥郡宇出津たなぎの古城へ、從越後國長興市と申者、船にて寄上り申旨注進仕候に付、魚津より長九郎左衛門・足輕頭大屋助兵衛今一人の改名兩人被遣、七尾御留守に罷在候侍中被指添、たなぎへ被遣候。五郎兵衛様よりは西村源六・高野久内・岡野少右衛門・梅覺兵衛四人被遣候。敵の船隠しを破り追拂申候。御家來中高名御座候。

一、其後松波村より宇出津の城へ、敵十六人籠居申候に付、五郎兵衛様より御家來中、勿論右四人の者も被遣候處、敵落行き一人も見え不申に付、其妻子一門五十二人搦捕歸陣。

則利家様へ御注進被成候處、本七尾町末赤坂と申所に礎に御隠被成候事。

一、同六月五日利家様魚津より御歸陣被成候。
一、石動山衆徒謀叛仕、越後勢を引入申に付、直に御攻被成候。同七月二十四日落去仕候。

一、同年秋太閤と柴田修理亮對陣に付、利家様御馬府中まで出申候。其年は御陵にて、十月末に御人數入申候事。

一、十一年四月二十一日、柳瀬にて柴田修理亮敗軍の節、利家様柳瀬を御退被成、府中城へ御楯籠被成候。侍僅五十人許ならでは無御座候。鐵炮も少く御座候故、侍中町へ罷出、鐵炮拾挺許取參り申候。拙子も五匁筒一挺取參り、利家様へ懸御目申候處に、御直に玉藥十放分御渡被成、御指圖にて北江口へ向、夜中に十放ながら打ち、人馬多く打倒申候。三、丸の内山崎主膳坊屋敷、侍拾人にて堅め申候。町口には火を懸申に付、敵北江口より攻込申候。前田右近大夫様御内源藏、兩屋敷にて御家來中粉骨の防戰、外輪の町に火を懸け、追退け被追込打死多く御座候。翌日陵に成、軍無御座候。
一、同十二年尾張國にて太閤と家康公と合戰御座候。御家

中三番に成り、圖取にて一番二番の人數ばかり被遣候事。

一、同年八月二十八日佐々内藏助謀叛、九月十日末森城を攻被申候。利家様從賀州後詰被成候。五郎兵衛様、播磨守様は、七尾荒山の出崎より勝山の城を御攻被成候。田邊將監・田邊勘右衛門・梅大學、二、丸にて鎗の迫合にて高名仕候。則火を上げ申候。

一、同十三年六月村井又兵衛へ被仰付、越中國蓮沼を放火被成候。内藏助栗栖送出合、鳥越にて合戰御座候。

一、同年秋太閤越中國へ御馬出申候。
一、同十八年關東御陣、四月中旬より松枝城攻、五月上旬落去。

一、同年六月二十三日より八王寺城攻。

一、同年九月津輕へ御檢地に御越。出羽國の内新庄と申所にて一揆と御取合、噓に成合戰止申候。此時播磨守様衆山内兵太郎討死、同内小塚八右衛門・馬淵源藏・中村庄兵衛・松原金太夫・笠間義兵衛・杉本七左衛門武功有之候。大谷刑部少輔家來、新庄居城仕居申候。
一、筑紫陣。

一、文祿元年高麗陣。

一、大正持陣、慶長五年八月九日御歸陣。

一、大坂陣、慶長十九年十月十四日に御出陣。翌年二月七日御歸陣。元和元年四月十八日御出陣。八月御歸陣。

一、大納言様能州末森城御後卷の儀、日本に隠れ無御座御覺に御座候。太閤様御時衆業の於殿中、日本國中大小名何も御出仕候中にて、大納言様越後の上杉景勝に御向被成候て、先年山の下難所を被越候て、越中魚津の爲後卷天神山迄被出候事、其方御手柄と申事に候。併我等能州末森城致後卷、内藏助追散し、數多鎗をいたさせ無異儀令入城候事は、彼天神山迄御手前被出候事など少しの事に候。末森の事には、中々比へにも被申聞敷候由、大納言様被仰候へば、衆樂殿中上下共に、兎にも角にも詞を御出し候人無之候。故中納言様其御臨に被成御座、大納言様へ御向被成候て、苦々敷御物語被成様哉と御笑止に被思召候由、後日に御語り被成候と也。

一、淺野彈正殿御息左京殿も御同道候て、二番目但馬殿具足させられ可被下旨、大納言様へ被仰。則大納言様御手